

塩尻市の産業・観光振興のために図書館ができること

—ブドウ・ワインの生産販売の応援を中心に—

田中 倫子

塩尻市立図書館

## 1 はじめに

今回、ビジネス・ライブラリアン講習会に参加して、塩尻市の産業振興や観光振興のために、図書館で何ができるだろうかと考えた。塩尻市立図書館は、市直営の図書館であるが、市役所の担当課との連携が一部分しかできていないことが課題であると感じている。

講習会では、図書館ができることや、図書館と連携するメリットを連携したい相手に伝えることの大切さを学んだ。私は、一年毎の契約の会計年度任用職員であるため、何かをやるには、まずは上司や同僚の理解を得ることが必要である。これから、市の職員として、どんなことができるか考えたい。

## 2 塩尻市の概要

塩尻市の地形は東西 17.7 k m、南北 37.8 k m、面積 290.03 k m<sup>2</sup>。2022 年 6 月 1 日現在、人口 66,713 人、世帯数 28,515 戸である。長野県のほぼ中央に位置する本市は、北アルプス、中央アルプス、鉢伏連峰・高ボッチの山並みを背景に田園風景が広がっている。

縄文時代以降長期に渡って集落が形成された平出遺跡は、国史跡に指定され、学術的に貴重な資料を多く出土している。

近世の遺産では、中山道・伊那街道（三州街道）・北国西街道沿いに栄えた宿場があり、今も往時の面影が残っている。特に、奈良井宿は、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定され、個性的な町並みが今も保存されている。

塩尻の農業は、レタスを中心に豊富な種類の野菜が栽培されている。また、果樹は、ブドウ、リンゴ、ナシ等も栽培されている。近年、品質の向上とともに「桔梗ヶ原」の名で親しまれるようになってきたワインは、塩尻市が押すブランド戦略の重要な一品となっている。

木曾平沢地区は、漆器関連産業で集落が形成された、全国でもめずらしい漆器産地である。

## 3 塩尻市立図書館について

塩尻市立図書館は、2010 年 7 月に開館した複合施設、塩尻市市民交流センター「えんぱーく」の中にある。図書館は、本館の他に広丘図書館と 7 つの分館がある。蔵書数は全館で 552,182 点（2021 年 3 月末）。令和 2 年（2020）度の年間利用人数は全館で 134,468 人。令和 3 年（2021）度の総貸出数は 72 万 55 冊で過去最多を更新した。「塩尻市立図書

館サービス計画」に基づき、「知恵の交流を通じた人づくりの場」としての市民交流センターの機能の一翼を担うとともに、他の機能との融合により「役立つ情報を提供する図書館」「意欲と活動を応援する図書館」「進化する図書館」を目指している。

#### 4 ブドウ・ワインの生産・販売の応援について

##### (1) 現状

コロナ下で、人気イベントの塩尻ワイナリーフェスタが2020年、2021年は中止になった。農園でのブドウ狩り、外食での消費も含めて、以前と比べて対面販売、集客面では苦戦していると思われる。

市の農業振興係で市内ワイナリーにヒアリングを行ったところ、数ある課題の中でも「ワイン消費の伸び悩み」が最も深刻であることが分かった。

塩尻市では、ブドウの栽培からワイン醸造、ワイナリー経営までを学ぶ塩尻市主催のワイン大学を開催している。また、銀座NAGANO(注1)との連携による塩尻ワインのブランド発信をしている。地域ブランド推進活動協議会(事務局:塩尻市観光課)では、塩尻ワインを飲める店&買える店をパンフレットで紹介している。

##### (2) 第五次塩尻市総合計画 中期戦略

この中で、地場産業の振興(ワイン)、地産地消型地域社会への転換(農産物)、塩尻ブランドの確立(ワイン)が挙げられている。

##### (3) 事業を実施するための課題

外国産の安いワインではなく、市内で生産、醸造されたワインを購入してもらうためにはどうしたらいいだろうか。また、市内で生産されたブドウを購入してもらうにはどうしたらいいだろうか。

##### (4) 「事業を実施するための課題」に対する解決策

図書館の強みは、ワインコーナーを設置し、ワインの本・雑誌の収集に力を入れていること。このコレクションを活かしたい。ブドウについての本やルーラル電子図書館で栽培、加工などについての情報を入手することができる。市役所よりも気軽に行ける。

##### (5) 解決のための事業の概要

- ・塩尻市の特産であるブドウ、ワインの生産販売を応援する。
- ・図書館の資料、情報と情報発信力を活用する。
- ・気軽に多くの人を訪れる場所を活かしたイベント情報、テーマボックスなどの展示をする。

- ・イベントでは、興味のある人を買ってもらえる機会をつくる。

#### (6) 事業の目的・効果

目的は、塩尻市の代表的な特産品の生産、販売を支援することで、それに携わる市民の生活が豊かになること。効果は、ブドウ、ワインの産地としての魅力を発信することで、それに携わる人、移住する人が増える。

#### (7) 事業の対象者

- ・塩尻市でブドウを生産している農家・農園
- ・塩尻市でワインを醸造、販売している会社（ワイナリー、酒店等）
- ・ブドウ・ワインを購入する人

#### (8) 事業の具体策

- ①ビジネス情報相談会、ミニセミナーの開催（長野県よろず支援拠点と連携。長野県よろず支援拠点の専門コーディネーターと司書がタッグを組んで、何度でも経営課題の解決のお手伝いをする。継続事業。）

相談会は毎月、2～3回。ミニセミナーは毎月か隔月で開催している。今まで農業に関する相談はほとんどないが、他の業種の会社の販売促進などの相談はある。相談内容は経営課題の解決に繋がることなら何でも可能。

- ②ブドウ・ワインについてのブックリストの作成

どんな本や雑誌が図書館にあるのかを知ってもらう。

- ③ブドウ・ワインについてのパスファインダーの作成

ブドウ・ワインについて調べるにはどうしたらいいのかを知ってもらう。

- ④ブドウ・ワイン関係イベントへの協力（ポスター掲示、チラシ配布、テーマブックスの設置など）

多くの方にイベントを知ってもらい、参加してもらうための取り組み。テーマブックスで本などを展示すると、こんな本があったのかと知るきっかけになる。

- ⑤塩尻ワイン大学への出張図書館

ブドウ、ワインについて学ぶために図書館を活用してもらう。

- ⑥ワインについての講演会開催

一般の方向け。ワインについて知ってもらい、販売促進に繋げる。コロナ終息後は、ワインの試飲も検討する。

#### (9) 事業の連携先

- ・公益財団法人長野県中小企業振興センター・長野県よろず支援拠点←具体策①

- ・塩尻市産業振興事業部 産業政策課・農林課・観光課←具体策④
- ・塩尻商工会議所←具体策④
- ・塩尻市観光協会←具体策④
- ・塩尻志学館高校（ワイン製造工程を授業で実践する）←具体策④
- ・塩尻市内ワイナリー（16社あり）←具体策④⑥
- ・ハローワーク（新規就農者確保）

#### (10) 参考となる先進事例

ブドウとワインの資料活用では、甲州市立勝沼図書館、農業支援では、紫波町図書館、鳥取県立図書館、小山市立図書館の取り組みが参考になる。

#### (11) ワイナリーと自治体の連携

地域新聞、市民タイムスに市内ワイナリー「アルプス」社長の矢ヶ崎さんに取材した記事が載っていた。（引用文献1）矢ヶ崎さんは次のように話している。

「地域のワイン産業の活性化には、ばらばらに動いている感があるワイナリーや自治体が連携しなければならない。例えば「塩尻ワインシティ」として、数十年後の姿を描き、栽培、醸造、営業販売、観光まで一貫してブランドを高めるなど、大きなビジョンを持った取り組みが欠かせない。」

矢ヶ崎さんがおっしゃるように、これからも市はワイナリーと連携して地域のワイン産業の活性化に取り組む必要がある。

### 5 漆器産業の応援について

塩尻市は、ワインと共に漆器を特産品としてPRしている。図書館としても、漆器の生産・販売を応援したい。当館には、漆器の本のコーナーがあり、漆器祭に合わせての展示は今までも行われてきたが、これからも更に充実させて毎年続けていきたい。

漆器祭の時期に合わせて、漆器製品（漆塗りのワイングラス、箸、皿、お盆、アクセサリなど）の紹介をする。一般財団法人 塩尻・木曾地域地場産業振興センターの「木曾漆器の貸出」の取り組みの紹介をする。バイク、車などに漆を使うなど個性的な取り組みをしている市内の方や漆塗りの新しい製品を作っている会社の紹介パネルを設置する。漆器祭の行われる奈良井宿のパンフレットを設置。また、漆器の展示に合わせてテーマブックを設置する。漆器についてのパスファインダーを作り、展示コーナーに置く。これをレファレンス協同データベースに載せる。

ワインと漆器製品（ワイングラス、皿、お盆など）は、合わせて宣伝しやすい組み合わせである。ワインのイベントの時に漆器を、漆器祭の時にワインを宣伝していけるように知恵を絞っていったら良い。

## 6 観光へと繋げたい

塩尻市には、ブドウやワイン、漆器の他にも、古くからの街道、高ボッチ高原、平出遺跡、短歌館、古田晁記念館など特徴や魅力あるものが沢山ある。コロナ禍であっても、松本市や安曇野市、諏訪市など近隣自治体との連携を強めて、マイクロツーリズム（近場観光）で県内からの観光客を呼ぶことは可能だ。最近では、高ボッチ高原が人気アニメに登場して「聖地」になったことから、訪れる人が激増した。

図書館では、ホームページの他にフェイスブック、インスタグラムで情報を発信している。えんぱーくや図書館を訪れた方が、市内を観光し、飲食や買い物をして宿泊してくれたら良いと思う。

年間を通して様々な市のイベントがある。大きなイベントでは次のものがある。「塩尻ワイナリーフェスタ」「木曾漆器祭 奈良井宿場祭」「塩尻玄蕃まつり」「高ボッチ高原観光草競馬大会」「小坂田公園納涼花火大会」「信州しおじりぶどうまつり」「ひらいで遺跡まつり」「全国短歌フォーラム in 塩尻」「ハッピーハロウィーン in しおじり」「奈良井宿アイスキヤンドル祭り」。イベントに合わせてポスターを掲示してチラシ、テーマブックを設置する。それをフェイスブック、ホームページや新聞などで情報発信する。地域資料が活かせるし、図書館なら誰もが自由に気軽に来館できる。観光に役立つ図書館でもありたい。

## 7 おわりに

より魅力的な暮らしやすい街づくりを地域の人達と一緒にできたらいいと思う。資料と人、情報と人、人と人を繋ぐのが図書館員の役割だと思う。

塩尻市の産業・観光振興のために図書館ができることを考えたが、調べる中で、同じ思いを共有する市役所や市内団体、会社、個人と繋がることでもっと良いアイデアや企画が生まれる可能性があると思った。

講習会の中で常世田先生がおっしゃったように、思考停止せずに自分で考え続けることで地域活性化への道も開けていくと思う。これからも塩尻市の産業・観光振興のために図書館は何ができるかを考え続けていきたい。

### 《注》

(注 1) 長野県が信州ブランド戦略の拠点として情報発信と交流のために銀座に開設したアンテナショップ

### 《引用文献》

(引用文献 1) 「市民タイムス」2022, 1, 20 2面「トップに聞く 2022 経済展望⑧」アルプス 矢ヶ崎学社長

### 《参考文献》

- ・塩尻市『確かな暮らし 未来につなぐ田園都市 第五次塩尻市総合計画〈長期戦略・第2期中期戦略〉』2018, 4
- ・『ゆるきゃん△聖地巡礼 ドライブ&ツーリングガイド』八重洲出版 2020, 3 p 41
- ・『るるぶゆるキャン△』JTB パブリッシング 2020, 2 p 32-33
- ・猪谷千香『つながる図書館』筑摩書房 2014, 1
- ・塩尻市立図書館「図書館概要」令和3（2021）年度版 2021, 6
- ・「市民タイムス」2022, 2, 23 2面「点検市予算案4年度一般会計【中】「もうかる観光へ好機活用」